

とわ  
絆・永遠にはばたく清き友どち

校長 里 恵美

昭和20年3月の清友学園高等女学校第1期生卒業記念アルバムは65年の時を越えて当時を語りかけている。丸いめがねの初代校長生田鹿之丞先生。着物姿が混じる16名の教職員。白いへちま襟の卒業生99名の乙女たち。入学当日の集合写真では「い組」55名「ろ組」56名計111名が緊張した面持ちで勢ぞろい。生物と国語の授業では教室の窓から穏やかな光が少女たちの背中に差し、ふっと自分もその場にいるような気持ちになる。芋堀でのほじける笑顔に屈託がない。

清友高校は清水谷高等女学校（現清水谷高校）の同窓会・清友会が創立40周年・紀元2600年記念事業として昭和16年に設立した清友学園高等女学校に始まる。その翌年に清水谷高等女学校長の生田先生を初代校長として迎え仮校舎から柏村の新校舎に移転した。幼稚園と中学校を設置し、昭和23年新学制により清友学園高等学校となる。昭和28年にやはり清水谷から吉持博先生が第2代校長として着任された。お二人を偲ぶ、題名も同じ「追憶」という2冊の小冊子がある。そこには文部省への設立申請から始まり、ご子息を病で亡くす中、校舎建築費を工面するご苦勞を乗り越えて開校し、その後の人生を清友のために捧げたともいえる生田先生のお姿がある。また2代目として苦境にあった学園を背負われ、清友学園中学校を廃し、昭和31年八尾市立清友高校として新たな出発をする中で、言語に絶する苦勞と献身的な努力をされた吉持先生のお姿がある。吉持先生は病の中「私は清友をこよなく愛する」という言葉を残して職を辞



されたという。第3代富田八郎校長時代に府立移管問題が起こり、第4代小西康弘校長の昭和54年に共学の府立清友高等学校となって現在に至るわけである。

このように変遷を重ねた歴史であるが、清友の名は脈々と受け継がれ69年を経て、昨年度までの卒業生総数は実に18059名に達する。同窓会は占春会と称するが、占春会員にとって清友は文字どおり「こよなく愛する」ものである。清友の長い歴史を閉じるにあたりそのことの再確認の日々であった。



平成21年11月21日(土)に清友最後の文化祭とメモリアル企画が催されたが、当日は高女1期生から府立30期生まで60歳以上の年齢幅の同窓生が集い、清友の歴史が凝縮された一日となった。

最後に清友を巣立つ府立31期生は後輩のいない高校生活を覚悟の上での入学である。自然豊かなこの学び舎で、勉学にクラブに充実した日々を送り、友との絆を深め、大きく成長したと信じる。清友を惜しむ声を聞くたびに清友生が評価されたのだと大変嬉しい。

母校がなくなるということは悲しいことであり寂しいことである。しかし清友の名のもとに紡がれた絆は永久に続くであろう。みどり清朋高校の校庭には時計塔が凜として立ち

清友記念庭園には高女1期生の石碑と梅の木が佇む。記念室に行けば清友の歴史を紐解くことが出来る。池島高校とともに若いみどり清朋高校のこれからの発展を見守りたい。

清友の歴史を振り返り、清友にかかわる多くの人々の思いが詰まったこの記念誌は清友が存在した証である。本誌を手に取り清友のことを思いただくと幸いである。



最後にこれまで清友をご支援いただいた方々に心からの感謝の意を表し結びとしたい。

もみぢば乃　くれないにはえ　メモリアル  
永遠（とわ）に翔（はばた）く　清き友どち

